

Southern Illinois Universityに オンライン留学して



海外
体験記

薬学部 薬学科 3年

渡邊 佳奈 (わたなべ かな)

留学先：南イリノイ大学・アメリカ合衆国

授業では得られない経験

オンライン留学してみte感じた大学の授業との一番の違いは、すべてのやり取りが英語だということです。最初のオリエンテーション・メールでのやり取り・宿題に関する説明など、更には、内容が分からなくて周りの人に確認することまで英語という環境はとても新鮮でした。

授業は普段大学で受けるような座学を想像していたのですが、実際はグループワークが中心で、単語を使ったゲームをしたりもしました。一番印象に残っているのが、授業の集大成として行った自国の伝説・おとぎ話の発表です。4人のグループでそれぞれひとつずつ自国のものを持ち寄って、その中から一つをピックアップしてクラス内で発表しました。私が紹介したのは「かちかち山」です。普段使わない単語が多く、説明がとても難しかったです。物語を説明するのに身振り手振り、イラストを描いたりしてとにかく伝えることに全力を尽くしました。説明中に相手から反応が返ってきて、ちゃんと伝わっていることが実感でき、とても嬉しかったです。また、お手本のような英語だけ

でなく、英語を母国語としない外国人の英語に触れることもできました。スペイン語圏の人が話す巻き舌調の英語はとても格好よく、同じ英語を喋っているのに出身によって全く違うのがとても面白かったです。これは留学することでは得られない経験だと思っています。

今回の留学を通して自分から発言する姿勢が身についたと思います。どれだけ自分の発音が拙くとも誰も笑わないし、自分が必死になって説明していれば周囲の人も理解しようとして必死に聞いてくれるということを感じました。また、留学期間中は普段聴く音楽を全部洋楽にしてみたり、英語でのニュース記事を読んだりしてみたりしていたのですが、留学が終わった今でも洋楽を聴いたり、英語ニュースに目を通すことが多くなりました。留学したことによって英語そのものに対するハードルがとてつもなく下がったことが実感できる習慣が残りました。

大学からのサポート

オンライン留学での最大のデメリットは、実際の留学と異なり、英語に触れる時間がその時間

しかないことです。これを補うために大学側から様々なサポートを受けました。留学前事前指導に加え、徳大生が利用できる「スーパースーパー英語」を通して平日は毎日課題が出されました。さらに、今回留学に参加している同じクラスに振り分けられた徳大生同士でのグループディスカッションの場が設けられ、昼間にも英語に触れ

ることができました。また、シンガポールで日本語を学ぶ生徒との交流会もあり、オンラインだからこそできる貴重な経験が得られました。

最後に

オンライン留学は期間が長くても価格が安く、空いている時間はアルバイトをすることができるので金銭的にも無理なく留学できます。また、

実際に海外にいきなり行くのは少し怖いとしり込みしてしまような性格の私でも気軽に参加できるものでした。オンラインでの留学を練習に、実際に行けるようになったら本番！という気持ちで参加できたので、現地での留学もしてみたいという気持ちも高まりました。



オンライン交流会の様子